



春季企画展

生誕二五〇年記念 杉田玄白門人 小林令助

■会期：平成31年3月9日(土)～令和元年6月23日(日)

杉田玄白に学んだ医師小林令助は、1769(明和6)年に美作国勝南郡岡村(現在の岡山県勝田郡勝央町岡)の医家の三男として生まれました。本年、生誕250年を迎えるのを記念し、企画展を開催しました。

令助が江戸へ遊学し、玄白に学んだのは18歳の頃です。当時は『解体新書』の刊行から10年余りが過ぎ、蘭学が次第に普及していく時期でした。令助は4年間熱心に修業し、玄白の日記「鵲齋日録」には「送令助之作州(令助の作州に之くを送る)」と題して、帰郷する令助へのはなむけの漢詩が記されています。この中で玄白は、令助を「才子」と呼んでいて、令助が優秀な愛弟子であったことが分かります。

帰郷後、医業を継いだ令助は、玄白や、玄白の紹介で知り合った蘭学者の宇田川玄真、藤井方亭と手紙を交わしていました。玄白からの手紙は、長いものは5メートルを越え、医師の指導や医師としての心得などが記されています。玄真からの手紙には、西洋渡来の薬サフランについての情報が書かれていて、令助が帰郷後も新しい薬や治療法を探求し、医師の向上に余念のなかつた様子が窺われます。

そうした活動が認められ、令助は51歳で当時岡村を治めていた出石藩の藩医に登用されました。そして、1851(嘉永4)年に83歳の生涯を閉じたのでした。

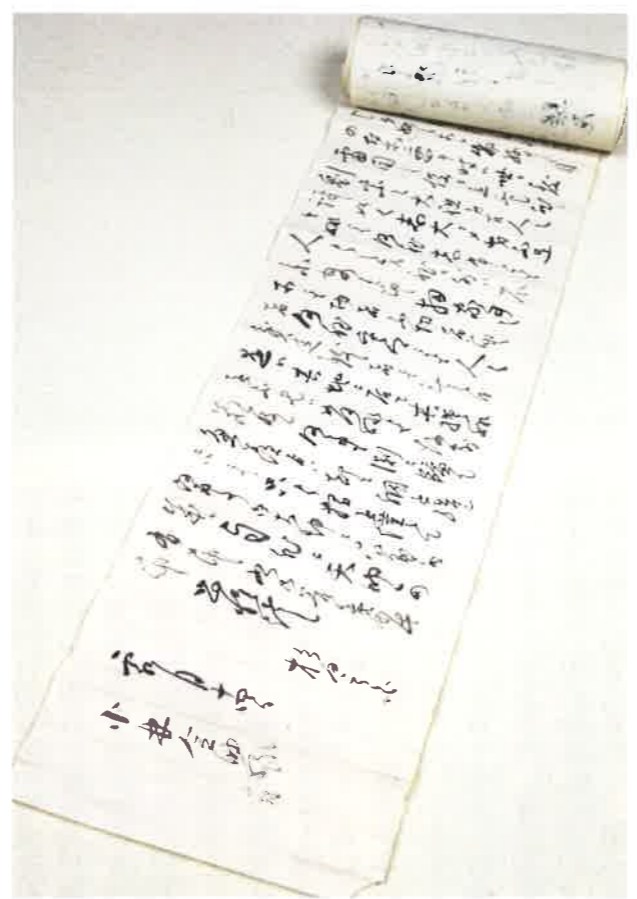
観覧された方々からは、「こうした医師が地域の医療を支えていたことを感じた」などの感想が寄せられました。現代語訳のキャプションと見比べながら、ゆっくり書簡を読んでいる方が多くいらつしやつたのも印象的でした。

なお、本展の開催にあたり、小林家の皆さまをはじめ、関係各位に多大なお力添えを賜りました。記して厚くお礼申し上げます。

資料館展示品から

5mにも及ぶ玄白の返書

霜月十四日付
小林令助宛て
杉田玄白書簡



小林家には、杉田玄白からの書簡が多く残されています。それは、令助が玄白のもとで修業し、帰郷してから数十年経った頃のもので、いずれも令助からの書簡に対する玄白の返事にあたります。そのうちの何通かは、春季企画展で紹介しましたが、ここでは1805(文化2)年11月14日付の書簡を取り上げてみます。

書簡の冒頭では、「朝謁無滞相濟候段(…)」と、將軍徳川家斉に拝謁したことを話題にしています。玄白は、前年に隠居を願ひ出

ていましたが、御目見えによって、その願ひが叶わなくなったと真情を吐露しています。書簡を読み進めると、玄白が漢方医学の一流派である古方(古医方)派に対して、あれこれと思いを巡らせていたことを窺い知ることができます。令助は、江戸で玄白から蘭方外科を教わり、その後、京都に出て吉益南涯から漢方内科を学び、古方派の理論に影響を受けました。そのような令助に対して玄白は、吉益家の説を聞いてその説を徹底し、万努力尽くで治

療しようとしていないか、劇薬を安易に用いてはならぬ、と助言しています。

その一方で、玄白は、京都で「古方」が唱えられたときの話として、そのことが羨ましく感ぜられたことを述懐しています。そして、古方派の医師と同じように自分も「古方」を唱えれば、何かは成し遂げられるだろうが、それでは他の人の下に立つことになって「残念」なので、自分は「蘭学」に活路を見出したと語っています。

文：学芸員 近都兼司

小林家伝来資料を
寄贈いただきました

小林家に伝来する小林令助関係資料は、かねてより当館へ寄託をしていただいていたのですが、この度、ご当主の小林照和さんから、資料を永く伝えていくために、とのご意向で全102件106点を寄贈いただくことになりました。杉田玄白や宇田川玄真の書簡や令助自筆の短冊など、美作地域の医学史を研究する上でいづれも貴重な資料です。5月11日(土)小林さんが資料館を訪問され、有本教育長から感謝状を贈呈しました。





洋学資料館の夏休み教室開催!!
 洋学資料館が新館に移転してから毎年行っている夏休み教室も、ついに10回目！今年もたくさんさんの思い出ができました。

■ **江戸時代の化学書からの実験**
 8月3日(土)には津山高専、津山高校にご協力いただき「江戸時代の化学書からの再現実験教室」を開催しました。まず津山高専の廣木一亮先生とゼミ生のご指導で「宇田川榕菴と金・銀・銅」、次に津山高校の井上直樹先生、森田智己先生、甲本龍平先生とSSH科学部生のご指導で「舎密開宗の実験・金属樹をつくる」を行いました。

■ **自分だけの「解体新書」を作ろう**
 再現実験教室の翌日には3回目となる「自分だけの『解体新書』を作ろう！」を開催しました。
 『解体新書』についての解説と、実物標本を使って臓器をスケッチ、それぞれのはたらきなどを学んだのち、臓器エプロンを製作して位置や役割を学びました。参加者の真剣な眼差しが大変印象的でした。
 ご協力いただきました、川崎医科大学現代医学教育博物館の中村信彦先生、鐵原恵子先生、坂本由美先生と川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科の学生の皆さん、大変ありがとうございました。

■ **インテローペンの作品づくり**
 7月27日(土)には小学生と保護者、翌28日(日)には一般の方を対象にした、オランダの伝統的装飾技法ヒンデローペンの作品づくりを開催しました。
 資料館展示室の装飾を描かれた永江絹子先生のご指導で、親子は小物入れ、一般の方は小物入れか木製タイルを選択して絵付けを行いました。昨年、一般の部が台風で中止になったこともあり、今年はいくさんの方に参加していただき、常連の方、初めての方、皆さん笑顔でお互いの作品を見せ合っていました。

小学生は、普段体験できない身近な貴金属の化学反応を楽しみました。前半は、硝酸で貴金属を溶かしたり、硝酸銀とアンモニアの混合液にブドウ糖を加えて加熱し鏡を作ったりしました。後半は、銅線に硝酸銀を垂らし、金属の樹枝状結晶である銀樹を観察しました。成長に時間がかかる銀樹は、自宅で金属結晶を観察してもらうことになりました。



松月清郎先生

第74回文化講演会

「真珠王 御木本幸吉と箕作佳吉」

講師 ミキモト真珠島 真珠博物館長 松月清郎先生

箕作阮甫の孫箕作佳吉は、日本人最初の東京大学動物学教授として多くの業績を残しました。その中でも最も知られているのは、世界初の真珠養殖に成功した御木本幸吉に助言したことではないでしょうか。今回の講演会では、ミキモト真珠島 真珠博物館長の松月清郎先生を講師にお迎えし、幸吉と佳吉の交流についてお話しいただきました。
 まず先生は、真珠島のある鳥羽、そして真珠の歴史からお話を始められました。江戸時代には、真珠は自然が偶然生み出す産物で、装飾品ではなく薬種として高値で取り引きされていて、特にきれいな円形の真珠は滅多に採取できなかったのだそうです。その採取量を増やしたいと考え、実現したのが幸吉でした。
 幸吉はうどん屋「阿波幸」の長男として生まれ、10代から家業のかたわら野菜の行商などの事業をはじめました。家督を継いだ頃、東京や横浜を訪ね、海外では真珠が装飾品として高値で流通していることを知り、真珠を扱う海産物商をはじめました。
 まず真珠を作るアコヤ貝を増殖しようと考えた幸吉は、大日本水産会の幹事だった柳栖悦に相談し、柳の紹介によって箕作佳吉に面会しました。佳吉は三崎の海洋研究所に幸吉を招き、真珠養殖が不可能ではないことを助言したといいますが、実は、この時どのような内容を教授したのかは分かっていないのだそうです。また、佳吉は幸吉の商売の応援もしていて、佳吉が幸吉に送った手紙からは、天然真珠の海外販売ルートを紹介していたことが分かるそうです。
 幸吉が、その才覚と機転で事業を展開していったことが分かるエピソードがたくさんあり、佳吉もそんな幸吉の人間性に惹かれて助力を惜しまなかったのかもしれないと感じました。聴講された方々も、先生のお話に引き込まれて、熱心に聞き入っていました。



夏季企画展
箕作家の歴史研究 — 西洋史はどう伝わったか —

■ 会期：令和元年7月6日（土）～9月16日（月・祝）

津山藩の洋学者箕作家は、生涯で160冊を超える著書を書きました。その内容は、医学や語学、地理学、科学技術など多岐にわたります。なかでも西洋の歴史は、力を入れて研究した分野の一つです。養子省吾とともに、地理書『坤輿図識』を刊行し、世界の国々の歴史についても紹介しました。その補編を執筆中に省吾は病没し、遺志を継いだ阮甫の手によってまとめられました。

江戸時代の後期、外国船が日本近海に相次いで来航し、人々が世界へと視野を広げていくなかで、阮甫と省吾はその関心に応えたのでした。

阮甫の初孫麟祥は、幕末にパリ万国博覧会に派遣された徳川昭武に随行し、見聞を拓けました。明治時代になると司法省に入職し、フランス法学や経済学を学びます。法制官僚として活躍するかたわら、『万国新史』を刊行し、世界の歴史を綴ったのでした。

同じく阮甫の孫元八は、二度のドイツ留学を経て東京帝国大学文学部（現在の東京大学文学部）西洋史学科教授となりました。元八は『フランス大革命史』『世界大戦史』など多くの歴史書を著わしました。それらの本を皇太子時代に愛読した昭和天皇は、のちに「最も偉大な影響を受けた」と語られています。

本展では、今年没後100年を迎える元八の業績を中心に、江戸時代の終わりから明治、大正時代にかけて、箕作家の人々がどのように西洋史研究に取り組んだのかを紹介しました。

観覧された方々からは、「西洋史の研究は、箕作家の業績なくして語ることはできないと感じた」、「留学時の切符が大事に残されていることに驚いた」、「昭和天皇と元八の関係をj知ることができてよかった」などの声が寄せられました。会期中は、夏休みの機会を利用して多くの学生が訪れてくれたほか、教育関係者や西洋史の専門家の来館もあり、皆さん熱心に展示資料を見つめていました。

最後になりましたが、本展の開催にあたって、お力添えを賜りました関係各位に厚くお礼申し上げます。

会の動
第39回友の会研修バス旅行
但馬路の史跡を訪ねて



青谿書院の前で記念撮影（養父市）



青谿書院で説明を聞きました



桂小五郎潜居跡（出石町）

6月9日（日）、友の会の研修バス旅行を実施しました。朝8時に津山をバスで出発し、一路養父市にある儒学者池田草庵の私塾青谿書院へ。現地では養父市教育委員会の谷本さん、松岡さん、草庵ご後裔の池田さんが迎えてくださいました。そして紙芝居で分かりやすく草庵の生涯を説明いただきました。草庵と弟子が熱心に勉強した様子に思いを馳せました。午後からは出石町へ移動して、お蕎麦の昼食をとった後は、ガイドさんの案内で桂小五郎の潜居跡や川崎尚之助の生誕地跡など、町並みをめぐりました。盛りだくさんの内容で、充実したバス旅行になりました。

NEWS FILE
中学生、職場体験学習を実施



6月11日（火）、12日（水）、津山市立東中学校2年生の3人が、「チャレンジワーク津山っ子デビュー14」で職場体験学習を行いました。2日という短い日程でしたが、来館者の受け付けや展示の解説、箕作家墓所の草取り、古文書の撮影など、様々な仕事をしてもらいました。

終了後には「展示解説では、繰り返し説明することで、自分でも理解を深めることができた」、「本物の資料に触るのは緊張した」などの感想を綴ってくれました。

薬草の小径

植栽整備ボランティア

昨年度から友の会の有志の皆さんが、資料館の薬草の小径や中庭の植栽整備をしてくださっています。今年は6月23日（日）に第1回の活動があり、植物の移植や草取り、剪定などをされ、終了後はとてもきれいになりました。

岡山県議会産業労働

警察委員会の視察

7月25日（木）、岡山県議会産業労働警察委員会の視察がありました。資料館の施設や事業概要の説明のあと、展示室も見学いただきました。



INFORMATION

平成31(令和元)年度の催し物(予定)企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「生誕250年記念 杉田玄白門人 小林令助」 21 第74回文化講演会「真珠王 御木本幸吉と箕作佳吉」 講師：ミキモト真珠島 真珠博物館長 松月清郎 先生 21 友の会総会 (休館日：15・22日) 	<p>3/9～ 生誕250年記念 杉田玄白門人 小林令助 ～6/23</p>
5月	(休館日：7・8・13・20・27日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 9 友の会研修バス旅行 (休館日：3・10・17・24日) 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「箕作家の歴史研究 西洋史はどう伝わったか」 27 親子でヒンデローペンの作品づくり 28 ヒンデローペン 絵付け体験教室 (休館日：1・8・16・17・22・29日) 	<p>7/8～ 箕作家の歴史研究 西洋史はどう伝わったか ～9/16</p>
8月	<ul style="list-style-type: none"> 3 江戸時代の化学書からの再現実験教室 4 自分だけの「解体新書」を作ろう (休館日：5・13・14・19・26日) 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> 8 津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム「フランス近代史研究の今・むかし」 講師：長井伸仁先生・岩下哲典先生 (休館日：2・9・17・18・24・25・30日) 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「日本を動かす！ - 武雄の蘭学 -」 5 企画展記念講演会 (休館日：7・15・16・21・23・28日) 	<p>10/5～ 武雄の蘭学 ～11/4</p>
11月	<ul style="list-style-type: none"> 企画展「津山藩の英学事始」 (休館日：5・6・11・18・25・26日) 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> 友の会史跡見学会 (休館日：2・9・16・23・29～31日) 	<p>11/23～ 津山藩の英学事始 ～2/16</p>
1月	<ul style="list-style-type: none"> 26 職員による研究報告会 (休館日：1～3・6・14・15・20・27日) 	
2月	(休館日：3・10・12・17・25・26日)	
3月	(休館日：2・9・16・21・23・30日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

津山市政施行90周年記念・津山洋学資料館令和元年度秋季企画展

「日本を動かす！」 武雄の蘭学

武雄 × 津山交流展示

2019
10.5(土)+11.4(月・休)

企画展記念講演会
佐賀藩武雄領の洋学とその背景
講師：武雄市図書館・歴史資料館
歴史資料専門官 川副 義敦 先生
日時：10月5日(土) 午後1時30分～3時
会場：津山洋学資料館 GENPO ホール

入館料の改定について

令和元年10月1日から下記のとおり
入館料が変わります

65歳以上 200円
(津山市内・市外共通)

ご利用案内

- 開館時間／9：00～17：00 (入館は16：30まで)
- 休館日／月曜日(祝祭日の場合はその翌日)
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日～1月3日)

■ 入館料／10月1日～

一般	65歳以上	高校・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)	200円 (160円)

※()内は30名以上の団体料金です。
※小学生・中学生は無料です。



〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



● 交通のご案内

- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分